

**授業概要**

音への気づきから様々な音の発見と音の創作をふくめ、身の回りの物、声、あるいは楽器でのアンサンブルを演習する。アンサンブルに必要な人とのかかわりを重視しながら、教育現場での器楽合奏や即興演奏、音楽づくりに発展できるよう演習を通して指導する。学生が保育者、教員となり、アンサンブルの楽しさを子どもたちに伝えられるよう、学生自身も楽しめるような教材を指導する。

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション、生活の中での音の発見
第 2 回	生活の中でのリズムの発見・リズム打ちの復習
第 3 回	リズム打ちの復習
第 4 回	打楽器、民族楽器、和楽器 効果音の奏法と演習
第 5 回	旋律楽器の奏法と演習
第 6 回	ボディパーカッションアンサンブル（身の回りの音）、楽器の創作（提出）
第 7 回	器楽アンサンブル（リズム楽器）オルフ楽器での即興演奏
第 8 回	器楽アンサンブル（ミュージックベル、トーンチャイム）
第 9 回	中間テスト（リズム打ち、奏法）
第 10 回	声のアンサンブル（言葉のアンサンブル）
第 11 回	声のアンサンブル（わらべ歌）
第 12 回	声と楽器のアンサンブル（わらべ歌）
第 13 回	声のアンサンブル（二部合唱）パート練習
第 14 回	声のアンサンブル（二部合唱）仕上げ
第 15 回	グループ発表のためのアンサンブル練習
第 16 回	グループ発表期末試験

**到達目標**

- ・体、声、楽器をはじめ、様々な発音体によるアンサンブルの手法を経験し、音に対する感性を高める。
- ・グループでのアンサンブルから音楽を通じ、人との関わり、心のアンサンブルも感じ取れるようにする。
- ・アンサンブルを通じ、読譜、リズムなど音楽的能力を高める。

**履修上の注意**

- ・履修者の人数、音楽経験度によりシラバスの変更がありうる。
- ・グループでの活動から、出席を重視する。
- ・遅刻 3 回で 1 回欠席とする

**予習・復習**

- ・グループでのアンサンブルができるよう自分のパートは責任もって自主的練習をすること。
- ・積極的な活動参加をすること。

**評価方法**

授業への参加度（40%）中間小テストリズム打ち（15%）授業内提出物（15%）、期末試験（30%）

**テキスト**

プリント配布